

## 大学院入試経験談

### 2017 院進Aクラス 沈喆

私は大学院進学コースAクラスの沈喆と申します。2016 年に中国の一般「一本」クラスの大学を卒業し、2016年7月から独学で日本語の勉強を始めました。同年12月に日本語能力試験N2級に合格し、2017年4月に亜細亜友之会外語学院に入学しました。先生たちのご指導のおかげで、同年7月にN1級に合格することができました。経済学の勉強もゼロからスタートし、1か月半をかけてERE試験でSを取得し、4ヶ月で早稲田大学大学院経済研究科に合格しました。以下は私の経験です。

まず、自分の学力レベルと目標を明確にしてください。私の場合、経済学の知識に関してはゼロだと言いましたが、中国の大学で高等数学や統計学など、数学の基礎を学びました。それに、もともと経済学に興味を持っていましたので、経済学を専攻にすることに迷いがありませんでした。しかし、準備の時間が短く、惜しくも東京大学と京都大学の出願のタイミングに間に合いませんでした。私は冬季入試に参加し、個人的に、夏季入試と比べて冬季の難易度が高いように思います。原因としては、中国の大学を卒業したばかりの学部生にとって、卒業年の夏季入試の出願に間に合わせることは現実的な話ではないです。受け入れ人数からしても、夏季のほうが圧倒的に多い状況です。こうして、留学生たちが冬季入試で激しい競争に直面せざるを得ない状況が生まれました。そのため、できれば皆さんに夏季入試に参加してもらうことをおすすめします。

次は資格の取得についてです。一つ目、N1合格が必須です。二つ目、英語の成績についてです。個人的に、できればTOEFLの成績を70点以上、もしくはTOEIC650点以上の成績を取得したほうが有利に思います。東京大学、京都大学と一橋大学のような国立大学はTOEFLの成績が必須です。TOEFL成績の提出が必須ではないという大学については、私の意見として、やはり提出すべきです。私の場合、横浜国立大学の出願のときにTOEFL成績を提出しませんでした。結果的に、横浜国立大学の合格がかないませんでした。もしあのときちゃんと提出していれば、合格できたのかもしれません。三つ目はERE試験についてです。同試験は経済学の基礎の復習に最適です。ERE試験で良い成績を取得できれば、経済学専攻の入試にかなり有利です。早稲田大学のように一部、経済学専攻を志望する学生にERE試験免除を認める大学もあります。しかし、私からすれば、ERE試験成績をもっている受験生とそうでない者は、合格率においてはかなりの差が見受けられます。ERE試験の出題傾向はある程度の予想がつきますが、出題範囲が広いため、しっかりと準備しておくと良いでしょう。

研究計画書に関しましては、研究テーマの選択肢が多岐にわたるように思います。経済理論、政策、公共政策、国際経済、金融、財政学等々です。研究計画書の内容と指導教授の専攻分野との一致性については、一橋大学、早稲田大学と横浜国立大学はそれほど厳しく求めていないように思います。しかし、上智大学や明治大学などは、出願の際、指導教授の研究分野を事前に調べ、その分野に一致したテーマを選んだほうが合格につながりやすいのではないかと思います。

筆記試験の準備についてです。経済学専攻は、他の専攻から編入するケースが多く、競争が激しくなっているように思います。経済学専攻を志望する学生たちによく考えて行動してほしいです。参考として、自分の数学レベル、論理的思考力、図表の読解力と空間想像力などが、事前に考えるべき事項にあたります。計量経済学の勉強は理系寄りで、マクロとミクロ経済は経済学の基本科目となります。事前準備の際、できるだけ視野を広げ、志望大学の過去問題集を解くことをおすすめします。

最後は面接についてです。大学院の面接は個人の専門知識に対する考察より、大学と受験生のお見合いのような印象が強いと思います。東京大学の大学院に合格したものの、早稲田大学の入試に落ちてしまい、あるいは一橋大学に合格したのに、横浜国立大学に落ちたというようなケースをよく耳にします。日本語のレベル、本人の研究計画書への理解、並びに指導教授の研究計画書に対する印象、基礎知識の習得状況など、様々な要因の影響によって合否が決まります。そのため、事前準備に関しては、ベストを尽くし、残るは神頼みだと思います。私の場合、一橋大学大学院面接の面接官の中に、研究計画書を書く際に引用した先行研究の著者がいました。その先生から先行研究についてたくさんの質問をされました。私の回答がその先生の期待に沿えなかつせいか、一橋大学に受かることができませんでした。また、早稲田大学、一橋大学と横浜国立大学の面接では、計量の問題などをその場で解いてもらうことがあります。難易度で言えば、横浜国立大学のそれが一番難しいと感じました。

以上が私からの感想とアドバイスでした。この場を借りて、まず学院の石川先生に感謝を申し上げたいと思います。日常生活で直面した様々な難題は石川先生のサポートにより解決ができた、私が勉強に専念できる環境を学校が作ってくださいました。その次は、大澤先生、小野先生と村岡先生に感謝したいです。御三方は出願の手続きから、模擬面接まで、あらゆる面で私をサポートしてくださいました。そして、申先生と趙聰先生に感謝したいです。生活の面において、たくさんのアドバイスとサポートをいち早く提供してくださいました。それから、各担任の先生への感謝です。指導教授と日本語で問題なく交流できるのが、各担任先生の丁寧なご指導のおかげによるものです。最後に、校長先生への御礼をさせていただきます。校長先生のおかげで、私たちが明るい未来を手に入れ、亜細亜友之会外語学院で充実かつ楽しい留学生活を送ることができました。